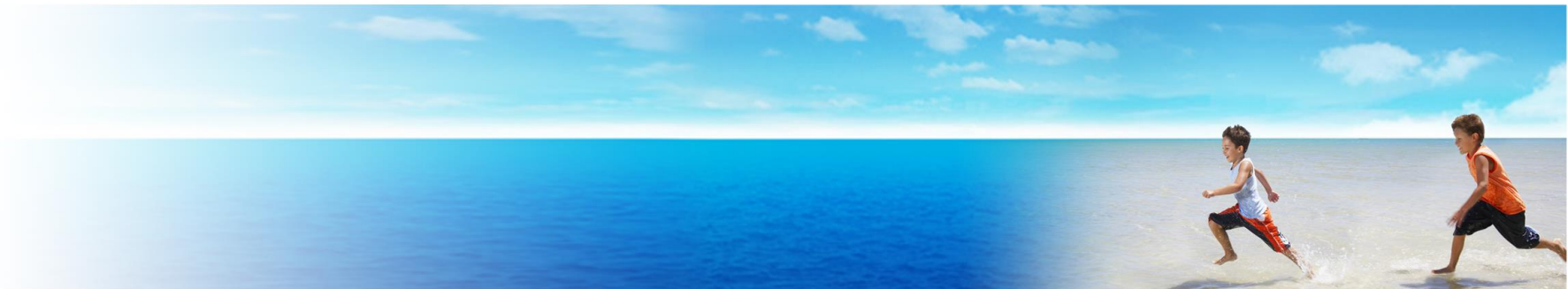


# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会

第99期：第2四半期累計期間

(2022年4月1日～2022年9月30日)

2022年11月1日



太平洋互業株式会社

1. 第2四半期業績
2. 2022年度通期予想
3. サステナビリティ経営

## 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

## ■ 経営環境の変化・リスク

- ・半導体等の部品供給不足、ロックダウンによる生産変動
- ・原材料、エネルギー価格の高騰、円安の進展

## ■ 上期実績

- ・生産変動による販売物量の減少
- ・経費改善、原価低減活動等を推進

## ■ 今後の課題・取組み

- ・挽回生産に向けた体制準備、増産効果の最大化
- ・既存事業と新規事業の成長に向けた活動を継続
- ・新中期経営計画の策定

# 1-1 2Q 連結業績



## 売上高は増収、営業利益は減益

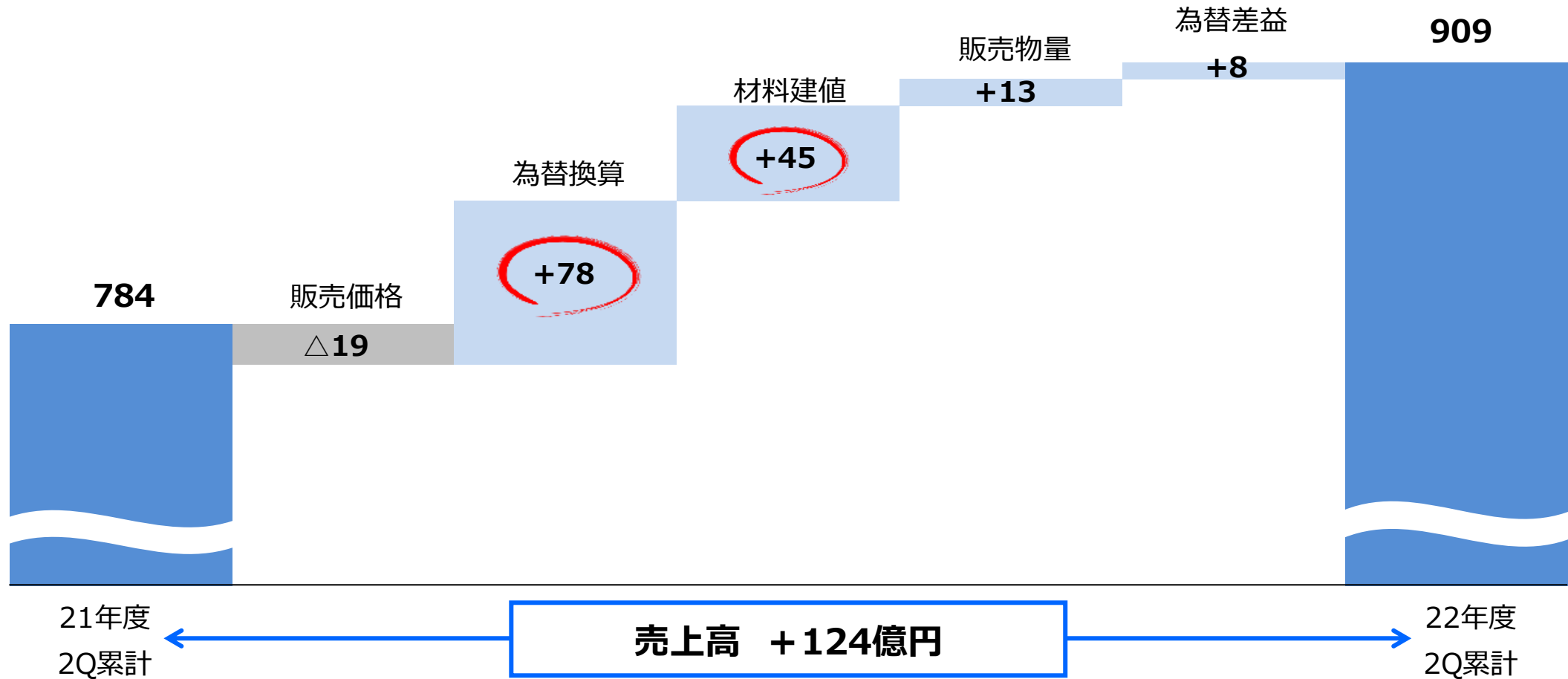
(億円、%)

	2021年度 2 Q 累計実績	2022年度		前年同期比		予想比	
		2 Q 累計予想	2 Q 累計実績	増減	増減率	増減	増減率
売上高	784	890	<b>過去最高</b> 909	+124	+15.9	+19	+2.1
営業利益	<b>過去最高</b> 50	35	<b>26</b>	△24	△48.2	△8	△25.7
営業利益率	6.4%	3.9%	<b>2.9%</b>	△3.5P	-	△1.0P	-
経常利益	<b>過去最高</b> 57	53	<b>55</b>	△2	△4.4	+2	+4.6
経常利益率	7.4%	6.0%	<b>6.1%</b>	△1.3P	-	+0.1P	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>過去最高</b> 43	38	<b>41</b>	△2	△5.7	+3	+8.7
四半期純利益率	5.6%	4.3%	<b>4.5%</b>	△1.1P	-	+0.2P	-
平均為替レート (米ドル)	109.9円	128.0円	<b>129.8円</b>	+19.9円	-	+1.8円	-

# 1-2 2Q 連結売上高 増減要因

円安、鋼材価格上昇により売上高は2Qとして過去最高

単位: 億円

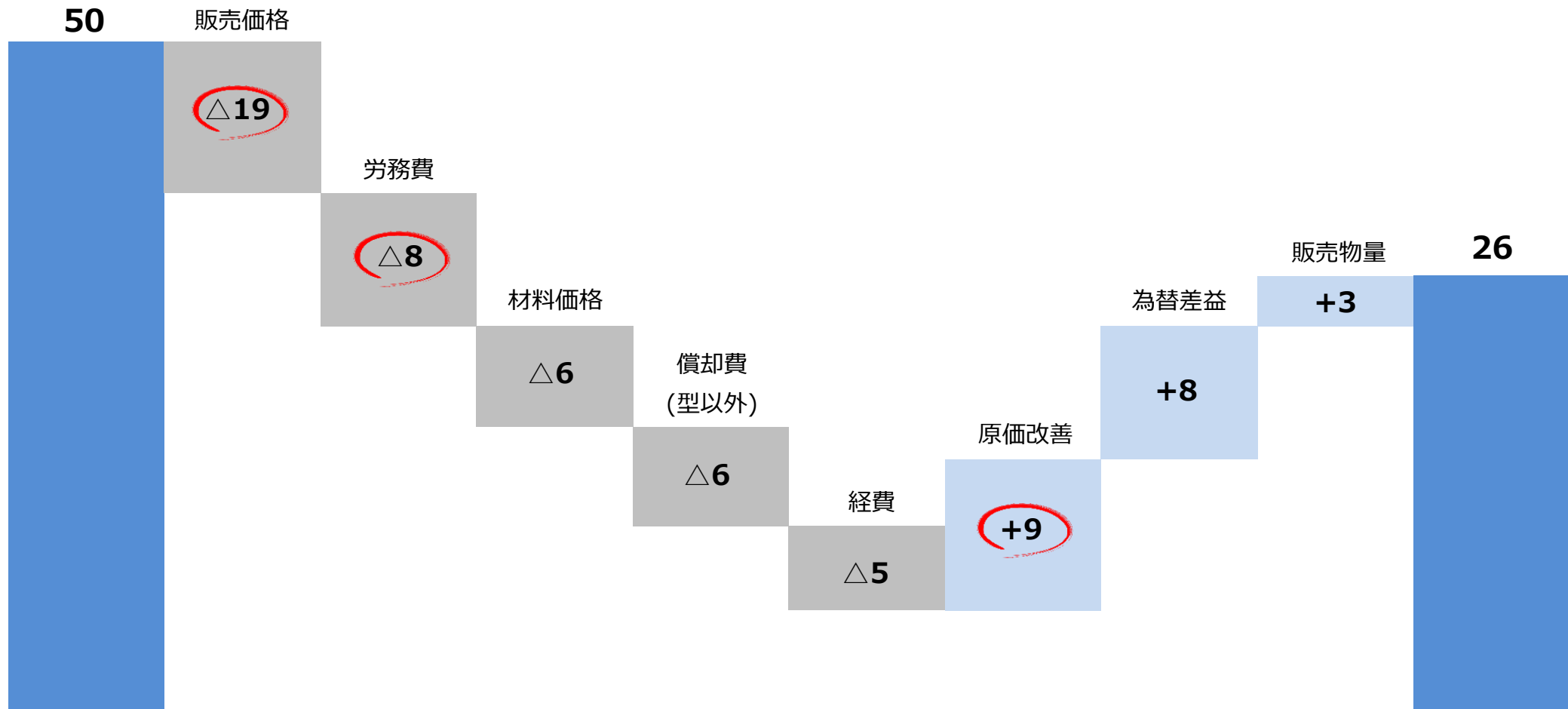


# 1-3 2Q 連結営業利益 増減要因



原価改善に取り組むも、販売価格低下・コスト増により減益

単位: 億円



21年度  
2Q累計

営業利益  $\Delta$ 24億円

22年度  
2Q累計

# 1-4 2Q 連結事業別セグメント



## プレス・樹脂、バルブともに増収・減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	21/2Q 累計実績	22/2Q 累計実績	前年同期比		21/2Q 累計実績	22/2Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
<b>プレス・樹脂</b>	532	<b>638</b>	+105	+19.9	16	<b>1</b>	△14	△88.5
営業利益率					3.1%	<b>0.3%</b>	△2.8P	
<b>バルブ</b>	250	<b>269</b>	+19	+7.7	33	<b>23</b>	△9	△29.3
営業利益率					13.5%	<b>8.8%</b>	△4.7P	

# 1-5 2Q 連結地域別セグメント



## 日本、欧米、アジアともに増収・減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	21/2Q 累計実績	22/2Q 累計実績	前年同期比		21/2Q 累計実績	22/2Q 累計実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
<b>日本</b>	334	<b>338</b>	+4	+1.3	31	<b>15</b>	△15	△49.8
営業利益率					9.3%	<b>4.6%</b>	△4.7P	
<b>欧米</b>	297	<b>379</b>	+81	+27.3	5	△ <b>3</b>	△8	△163.9
営業利益率					1.8%	△ <b>0.9%</b>	△2.7P	
<b>アジア</b>	151	<b>191</b>	+39	+25.9	13	<b>11</b>	△1	△12.8
営業利益率					8.6%	<b>6.0%</b>	△2.6P	



1. 第2四半期業績
- 2. 2022年度通期予想**
3. サステナビリティ経営

# 2-1 通期 連結業績予想



## 2Q累計実績を踏まえ、最新情報を下期予測に織り込み、通期予想を見直し

(億円、%)

	2021年度	2022年度		前期比		7/27発表比	
	通期 実績	通期予想		通期		通期	
		7/27発表	今回見直し	増減	増減率	増減	増減率
売上高	1,644	1,780	<b>1,850</b>	+205	12.5%	+70	3.9%
営業利益	107	105	<b>85</b>	△22	△21.0%	△20	△19.0%
営業利益率	6.5%	5.9%	<b>4.6%</b>	△1.9P	—	△1.3P	—
経常利益	146	135	<b>115</b>	△31	△21.3%	△20	△14.8%
当期純利益	98	95	<b>83</b>	△15	△15.3%	△12	△12.6%
R O E	8.1%	7.0%	<b>6.1%</b>	△2.0P	—	△0.9P	—
R O A (営業利益ベース)	4.6%	4.2%	<b>3.4%</b>	△1.2P	—	△0.8P	—
一株当り純資産	2,138円	2,370円	<b>2,381円</b>	243円	11.4%	11円	0.5%
平均為替レート (米ドル)	112.1円	129.0円	<b>135.0円</b>	22.9円	—	6.0円	—

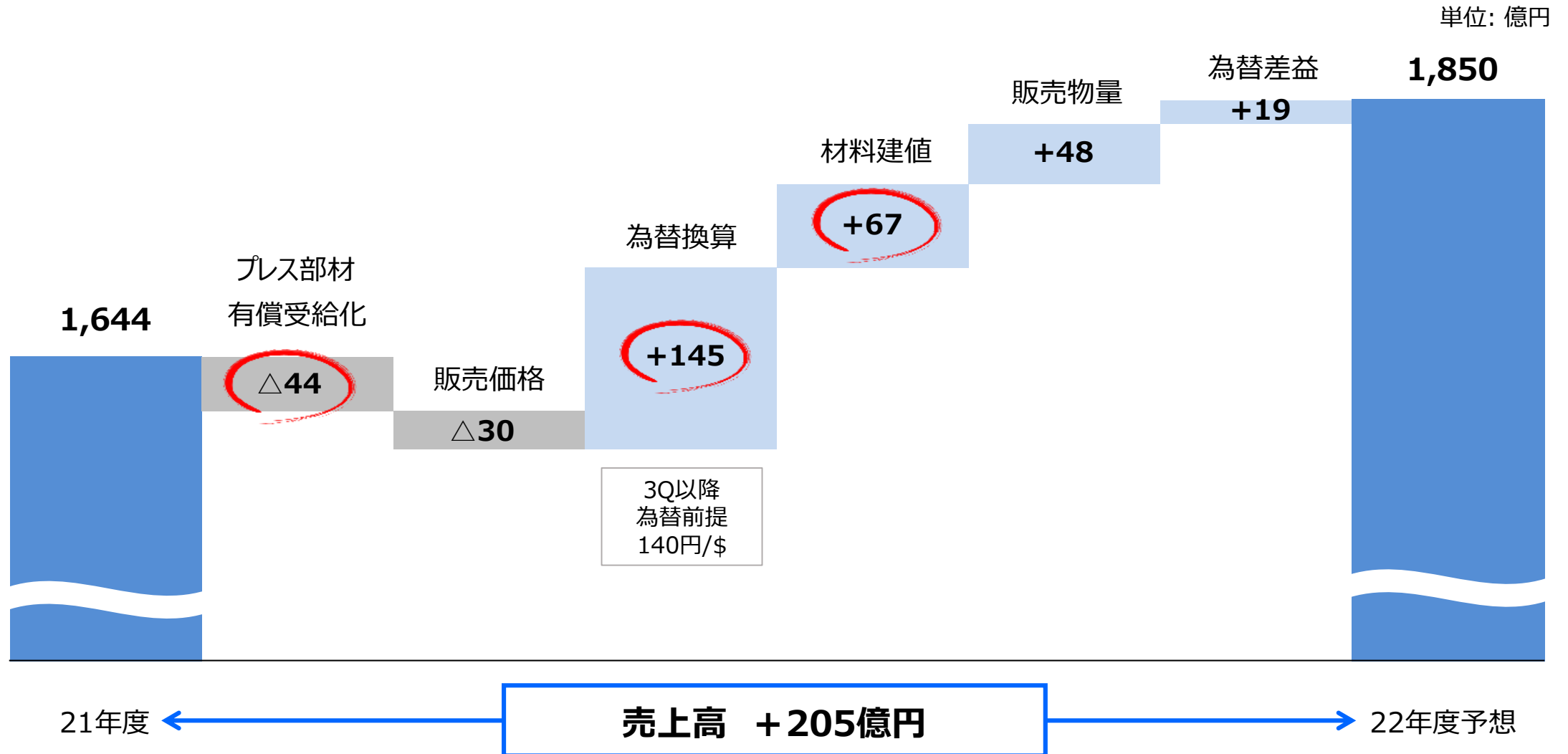
※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

※第3四半期以降の為替レート前提を、前回7/27発表値 130円/\$から、今回予想値 140円/\$に見直しています。

# 2-2 通期 連結売上高 増減要因



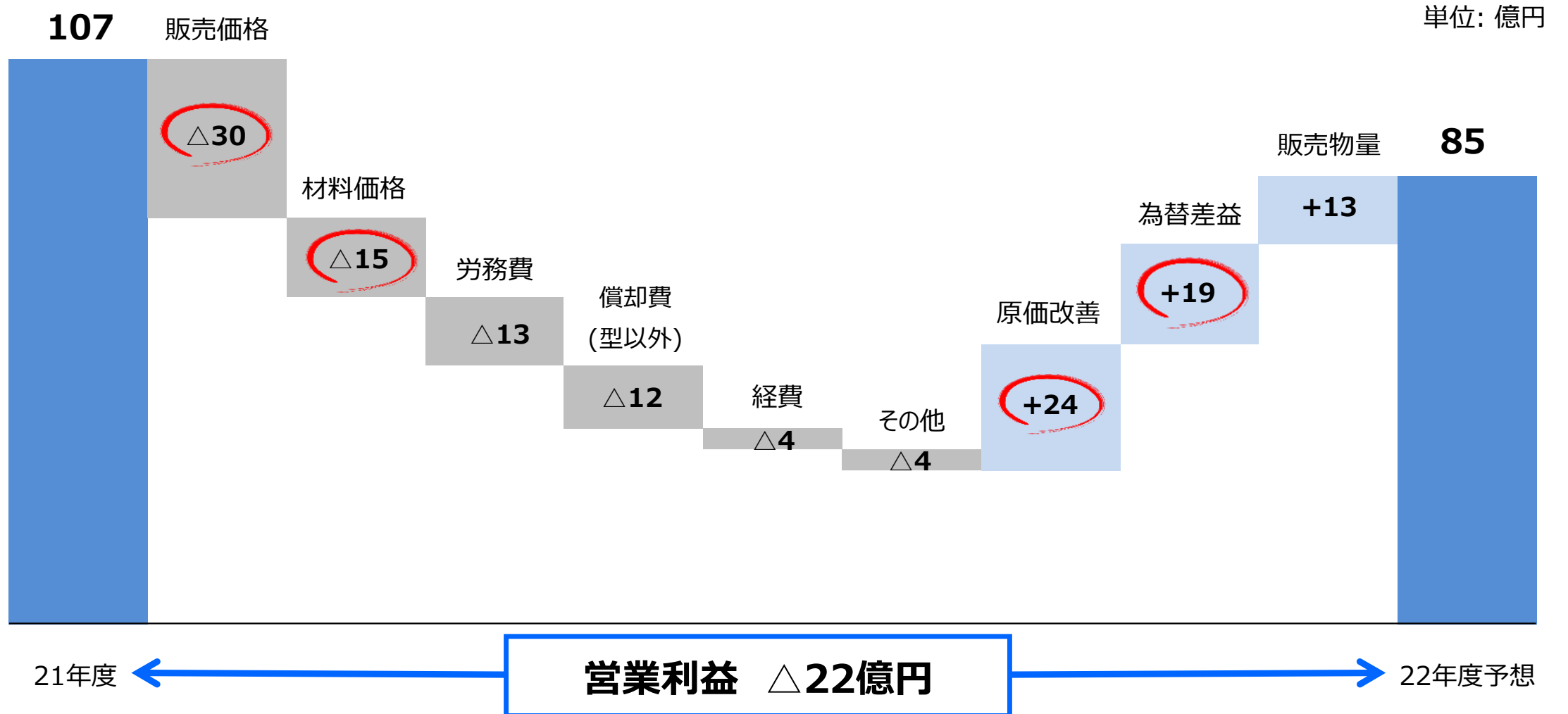
円安と鋼材価格上昇の影響により増収を見込む



# 2-3 通期 連結営業利益 増減要因



原価改善に取り組むも生産量変動により効果減、通期でも減益を見込む



## 2-4 通期 連結事業別セグメント



### プレス・樹脂、バルブともに増収・減益

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	21年度 実績	22年度 予想	前期比		21年度 実績	22年度 予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
<b>プレス・樹脂</b>	1,142	<b>1,312</b>	+169	+14.8	49	<b>39</b>	△10	△20.8
(プレス部材有償受給化影響)		※ (△44)						
営業利益率					4.3%	<b>3.0%</b>	△1.3P	
<b>バルブ</b>	499	<b>535</b>	+35	+7.0	58	<b>46</b>	△12	△21.1
営業利益率					11.7%	<b>8.6%</b>	△3.1P	

※2022年度第4四半期より、プレス部材有償受給化の増加により、44億円の売上減少を見込みます。利益への影響はありません。

# 2-5 通期 連結地域別セグメント



日本、欧米は増収・減益、アジアは増収・増益を見込む

(億円、%)

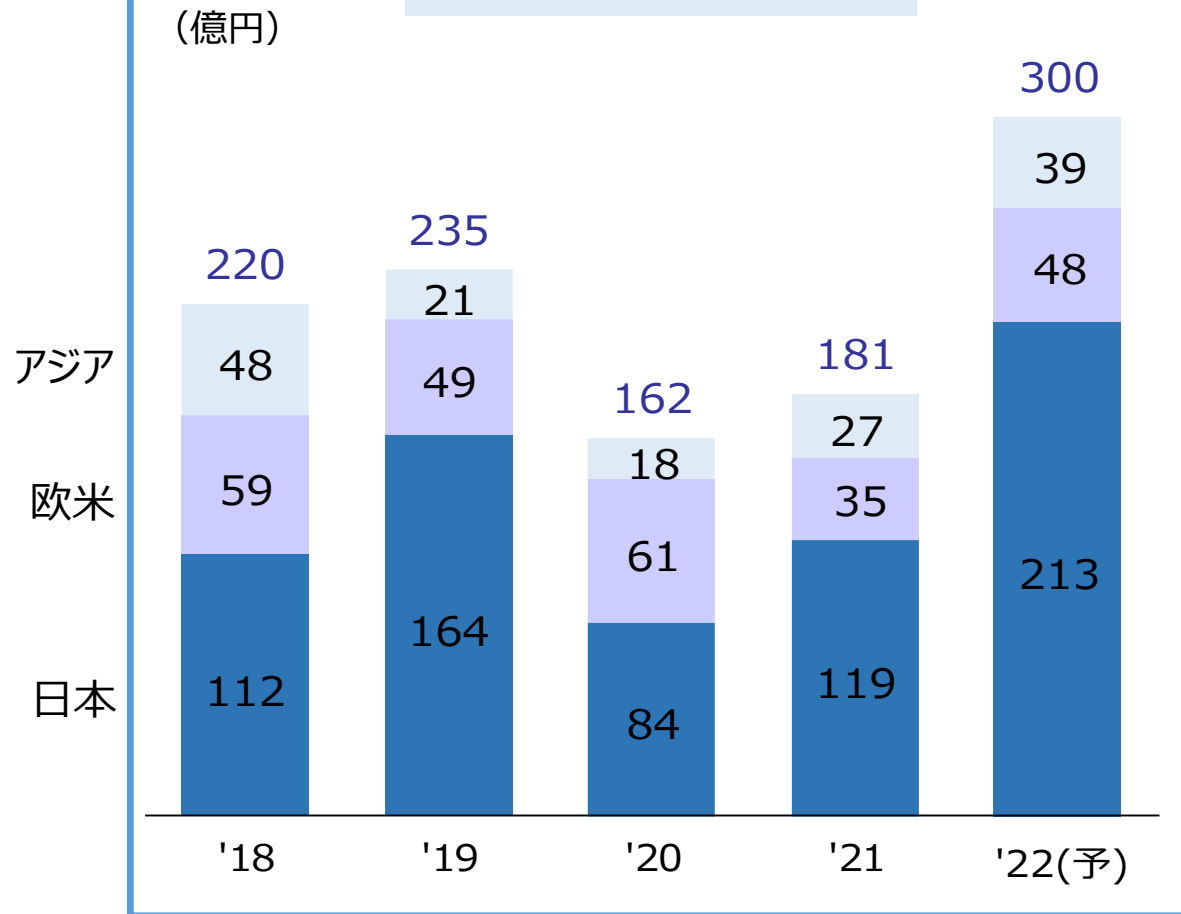
	売上高				営業利益			
	21年度 実績	22年度 予想	前期比		21年度 実績	22年度 予想	前期比	
			増減	増減率			増減	増減率
<b>日本</b>	687	<b>690</b>	+2	+0.3	61	<b>38</b>	△23	△38.2
(プレス部材有償受給化影響)		※ (△44)						
営業利益率					8.9%	<b>5.5%</b>	△3.4P	
<b>欧米</b>	612	<b>738</b>	+125	+20.5	13	<b>9</b>	△4	△34.6
営業利益率					2.2%	<b>1.2%</b>	△1.0P	
<b>アジア</b>	344	<b>422</b>	+77	+22.5	31	<b>37</b>	+5	+16.8
営業利益率					9.2%	<b>8.8%</b>	△0.4P	

※2022年度第4四半期より、プレス部材有償受給化の増加により、44億円の売上減少を見込みます。利益への影響はありません。

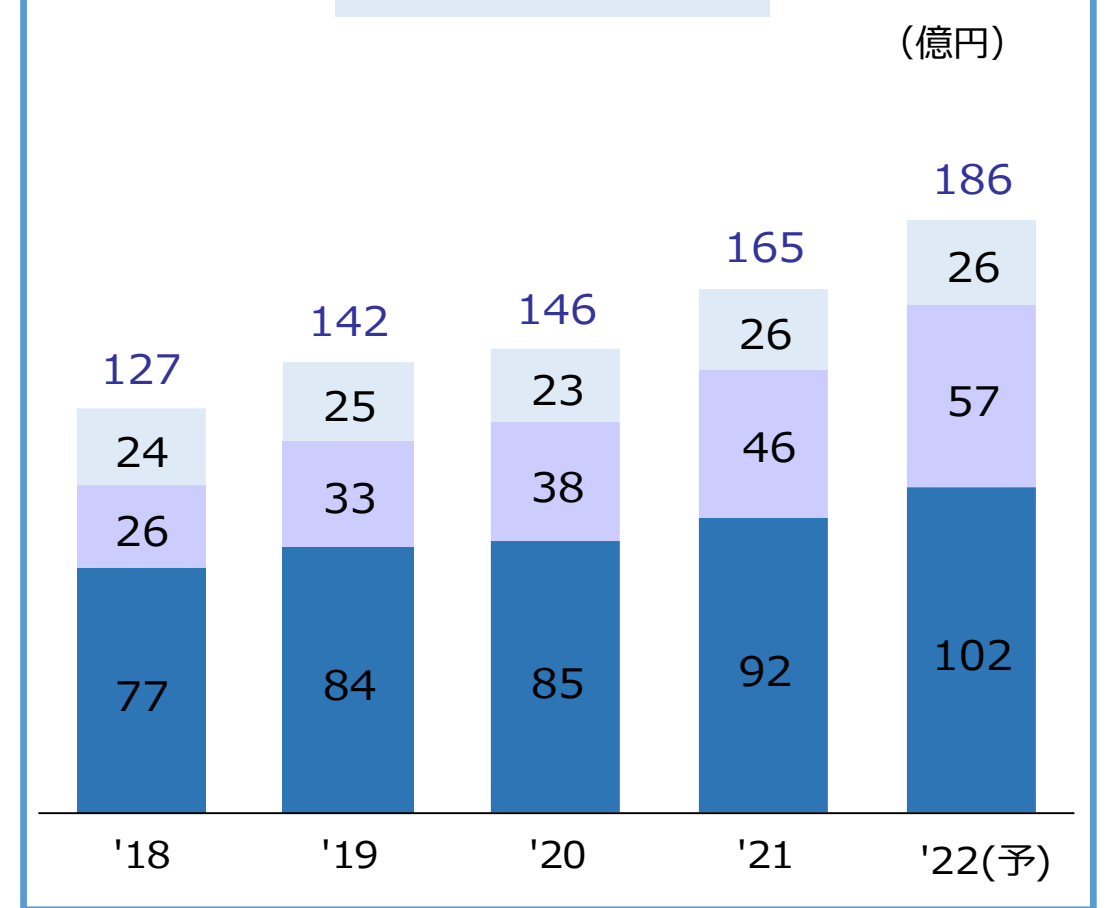
# 2-6 連結設備投資・減価償却費

将来の成長のための投資は、計画通り推進中

## 設備投資



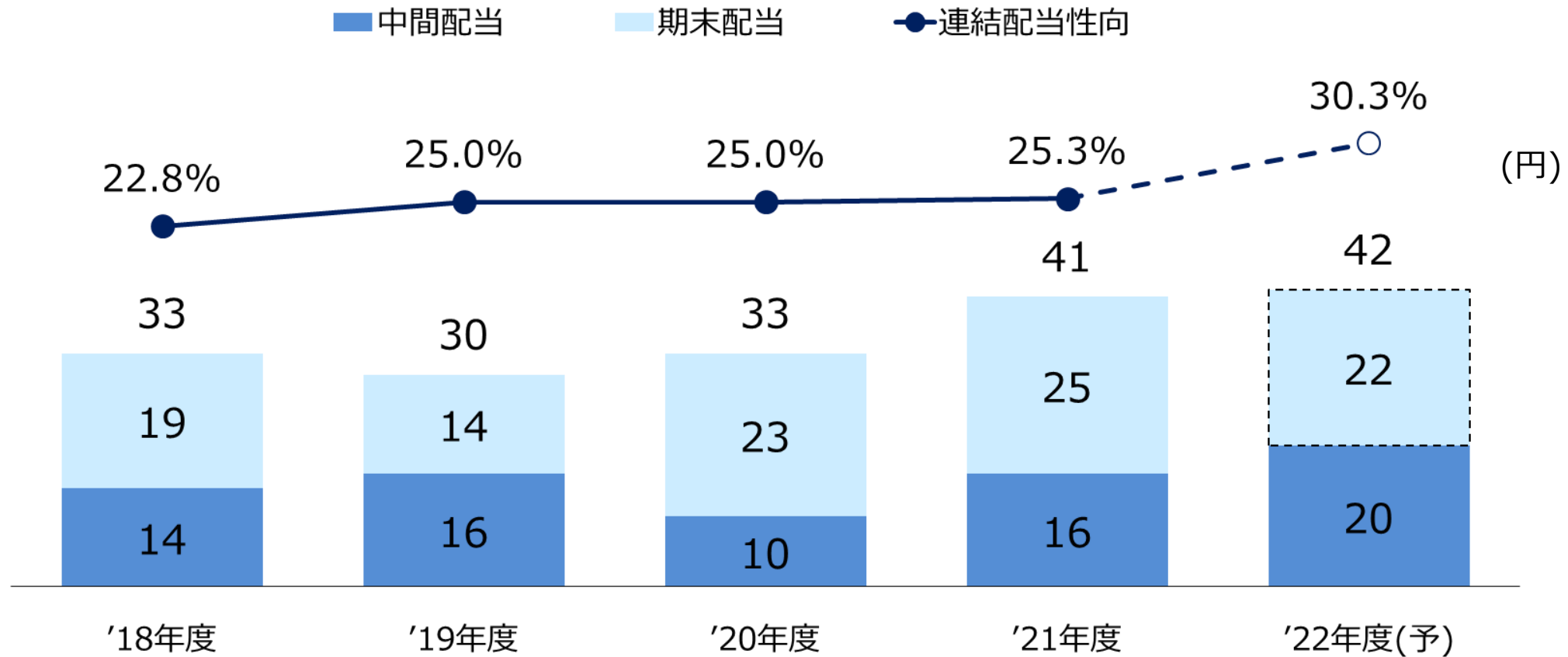
## 減価償却費



# 2-7 株主還元

配当予想は前年度比で1円増配、配当性向予想は30%

日本格付研究所  
長期発行体格付け  
A-安定的



※2022年5月～2022年8月に約95万株の自己株式を取得（約10億円）



1. 第2四半期業績
2. 2022年度通期予想
3. **サステナビリティ経営**

# 3-1 「OCEAN-22」を縦糸に、SDGsを横糸に紡ぐ



## 思いをこめて、あしたをつくる PACIFIC GLOCAL VISION

PACIFIC環境チャレンジ2050

OCEAN-22

### SDGs・ESG

ステークホルダーとの信頼醸成

製品を通じた社会・顧客課題の解決

環境負荷の極小化

30年目標：CO2排出量 50%削減

人財の尊重と活躍

### 事業活動

プレス・樹脂  
製品事業



バルブ製品  
事業



新製品  
事業



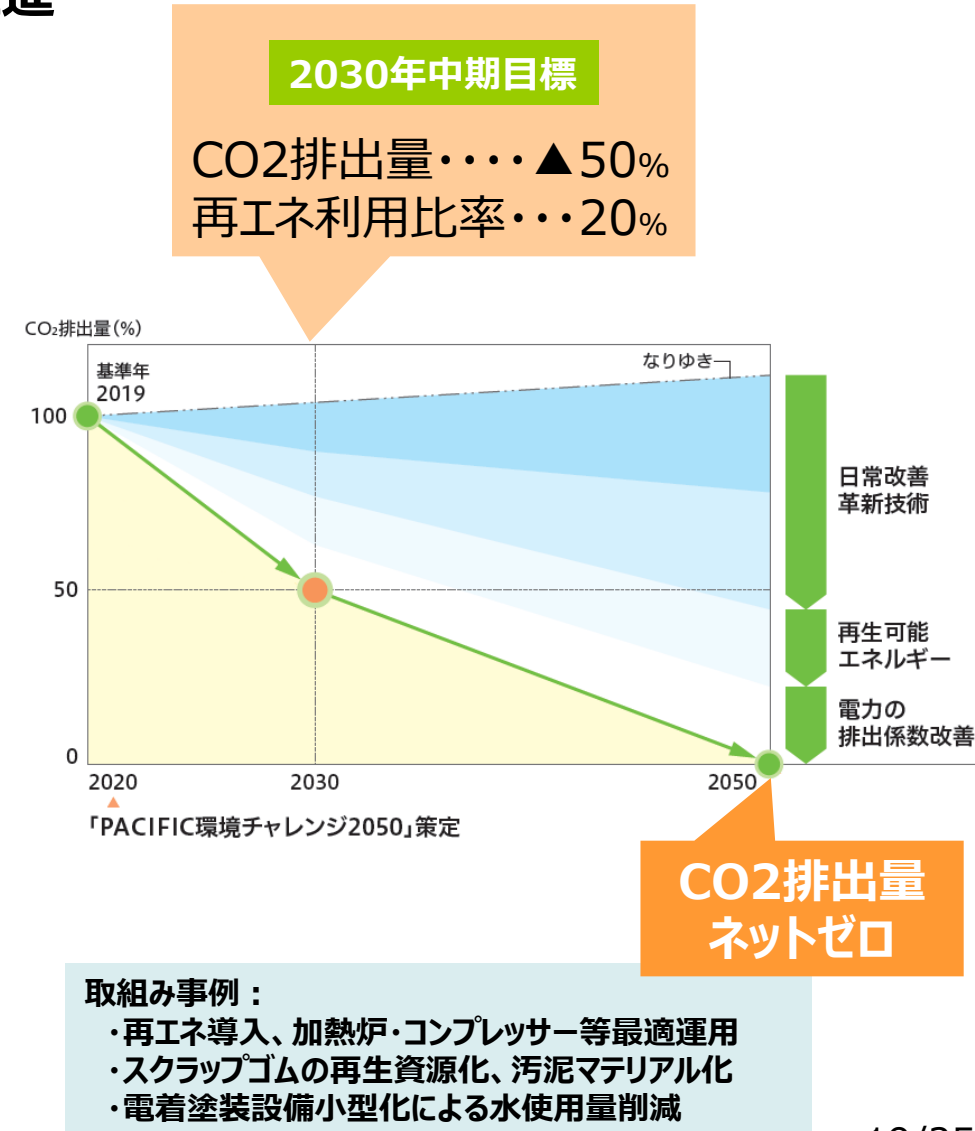
PACIFIC VALUES 「夢と挑戦」「信頼と感謝」

次世代モビリティ社会で、豊かな生活と  
持続可能な暮らしに「ものづくり」で貢献

# 3-2 環境負荷極小化の取組み

## 「PACIFIC環境チャレンジ2050」でマイルストーンを定めて活動を推進

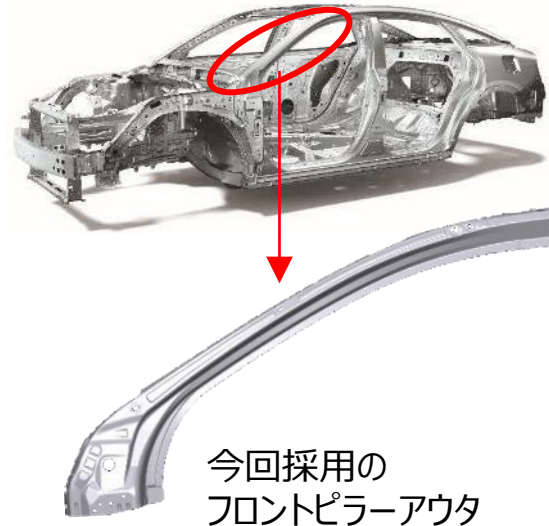
	マテリアリティ	SDGs	項目	現状 (21年度実績) 年度目標達成	2030年 目標	2050年 目標
カーボンニュートラル	気候変動の緩和及び適応	 	CO <sub>2</sub> 排出量	85.2(kt) 2019年度比 ▲9.7%	2019年度比 50%削減	ネットゼロ
環境負荷極小化	持続可能な資源の利用		廃棄物排出量	2,256(t) 2019年度比 国内▲36.9% 海外▲24.2%	2019年度比 国内 60%削減 海外 30%削減	極小化
	水資源の保全		水使用量	1,374 (km <sup>3</sup> ) 2019年度比 ▲21.2%	適正利用	極小化



# 3-3 冷間超ハイテン拡大と拠点拡充

ホットスタンプから冷間プレス1180MPa材へ置き換え

## トヨタ自動車 新型クラウン プロジェクト表彰受賞



今回採用の  
フロントピラーアウタ

- ・冷間超ハイテン1180MPa材で 長尺難成形部品の製品化を実現
- ・CAE解析による設計最適化、骨格プレス部品の領域拡大
- ・視認性向上のためピラー部が細く、成形困難な形状

## 米国・中国プレス拠点拡充

<米国オハイオ拠点>



- ・バッテリー現調化に伴い受注増加
- ・建屋拡張、レイアウト変更による生産性向上
- ・生産能力1割増強

<中国天津拠点>



- ・主要顧客の電動車生産増に伴い拡張
- ・3台目の大型プレス機導入、生産能力2割増強

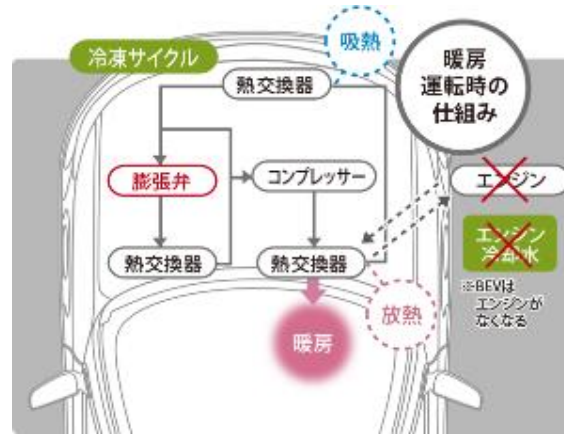
# 3-4 電動車向け製品の開発

## 制御バルブ、防音ウレタン製品の開発・拡販を推進

### 電動車向け制御バルブ



BEV向け電動膨張弁



- 熱マネジメントシステム向け  
制御バルブの開発推進

- BEV向け電動膨張弁開発完了

- グローバルでOEM、システムメーカーへの拡販推進



### 電動コンプレッサ用防音カバー

- ウレタン発泡成形技術による防音樹脂製品
- エンジン音がなくなり新しいノイズ発生
- 電動化でニーズが高まるノイズ対策での採用拡大をめざし開発・拡販を推進



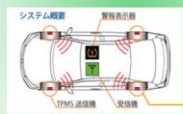
電動コンプレッサ用  
防音カバー

# 3-5 新分野の技術・製品開発

## コア技術を活かした新製品開発を推進

### 社会課題解決に繋がる新製品開発

TPMSコア技術  
センシング・無線



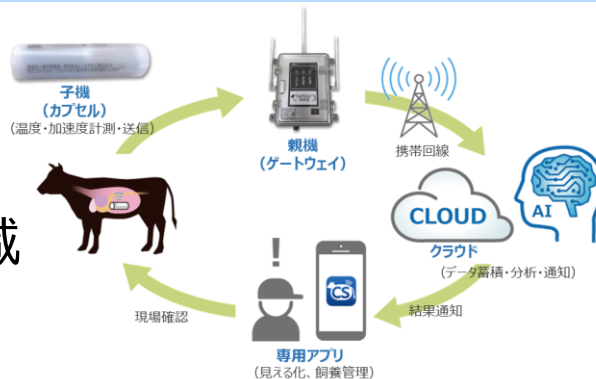
市場ニーズ  
モニタリング需要  
データビジネス

- ・浸水検知センサで  
国土交通省の  
実証実験へ参加等

アプリ・クラウド・AI

### 牛体調モニタリング「CAPSULE SENSE」

- ・22年6月より販売開始
- ・牛の胃内で直接測定
- ・AI解析で監視負担軽減



### マルチセンシングロガー「e-WAVES」

#### 2022年"超"モノづくり部品大賞

#### 「日本力（にっぽんぶらんど）賞」受賞

- ・ワクチン輸送に利用されるなど社会への貢献度が高い
- ・高い独創性、汎用性、利便性、経済性を評価



- ・温度・湿度・振動・位置・気圧・照度をセンシング
- ・医薬品・食料品輸送時の状況をリアルタイムで確認

# 3-6 再エネ導入・新工場建設

カーボンニュートラルに向けた取り組みを推進、CO2排出量削減目標達成をめざす

## 再生可能エネルギー活用



太陽光パネルを設置した栗原工場

- ・国内工場の購入電力を再エネ電力へ順次切り替え  
⇒九州・東北は再エネ電力100%達成
- ・国内7工場、海外3工場で太陽光発電導入

## 新東大垣工場



新工場外観イメージ

- ・電動化進展を見据え、プレス生産能力を増強
- ・ものづくりの効率を追求したグローバルマザー工場
- ・カーボンニュートラルを見据えた施策織り込み
- ・従業員がいきいきと働くことができる環境づくり

# 3-7 サステナビリティ経営の取組みと評価

当社グループの重要課題「マテリアリティ」に基づき推進

## サステナビリティ取組みと開示

<人財の尊重と活躍>

- ・人権尊重：人権方針策定、人権調査実施
- ・健康経営：健康宣言、安心・安全な職場風土
- ・D&I、働きやすい職場づくり、人財育成 等

<開示>



- ・サステナビリティレポートの発行
- ・マテリアリティの進捗とKPIの報告
- ・TCFDなど、開示の充実



## 外部機関からの評価

- ・CDP「サプライヤー・エンゲージメント評価」にて2年連続「リーダー・ボード」に認定
- ・EcoVadis：「シルバー」メダル認定
- ・「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄選定
- ・「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」認定



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index







思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow